

令和5年度



学校だより
1月号

令和6年1月10日

かわかみ

横浜市立川上小学校

横浜市戸塚区秋葉町203-2 電話 811-9345 FAX811-5961

新年に寄せて ～「夢」や「願い」に向けて歩み続ける子どもを支える～

学校長 堀部 尚久

令和6年(2024年)の年明けは、最大震度7を観測した能登半島地震という未曾有の大災害に始まり
ました。被害状況の全容さえも未だに正確につかみきれていないなかで、被災された地域の皆様にとっ
ては、不安ばかりが募る新春となってしまったことに、改めて心よりお見舞い申し上げます。1日でも
早く日常の生活が戻ってくることをお祈りいたします。

本校の保護者・地域の皆様方におかれましては、新しい年への期待や希望に満ちた穏やかな年明けを
迎えられたことと存じます。皆様方には、昨年も常に温かく本校の教育活動を見守り、支えていただき
ました。本当にありがとうございました。そして本年がまた、子どもたちの健やかな育ちを楽しみにで
きる素晴らしい一年になりますことを願っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、14日間の冬休みが明けて、昨日から年度末に向かう後期後半51日間(6年生は48日間)
の第四ステージが始まりました。新年を迎えた子どもたちには、見慣れた川上の子どもたちの笑顔があ
ふれていました。どことなく嬉しそうでもあり、元気溘瀾な表情さえも伺えました。「今年も、こんな
ことができたらいいな」「今年は、こんなことをしてみよう」「今年こそ、こんなことを頑張りたい」など、
自分の「夢」や「願い」に向けたためあてや目標をもったり、もとうとしたりしていることが、子ども
たちの笑顔となって表情に表れているようにも思えます。子どもたちは、今年はどうのようなためあてや目標
を立てたのでしょうか。立てようとしているのでしょうか。「夢」や「願い」に向けたためあてや目標を見
定めることは、そう簡単なことではありません。育ちゆく子どもたちにとっては、今はまだ「夢」は漠
然としているのかもしれませんが、子どもたちには、常に「夢」や「願い」をもち、自分の魅力や強み
を活かしながら、自分の「夢」や「願い」に向かってしっかりと歩み続けてほしいと願うばかりです。

昨日の朝会では、子どもたちに「一年の計は元旦にあり」ということについてお話ししました。この
言葉は、「新しい年を迎えて、自分がこうなりたいという夢や願いをもつことは有意義であるとともに、
そのためには、夢や願いの実現に向けて、最初にきちんとした計画や準備が必要である」ということを
意味しています。いつ、どこで、どんなことを、どのように取り組んでいくのかという計画を立ててい
るときには、もちろん様々な不安はありますが、楽しみとして感じることもたくさんあるはずです。同
時にまた、気持ちのもち方によっては、すぐにも実現しそうな気がしてくることもあるかと思えます。

しかし、実際には、「夢」や「願い」を実現していくためには、計画に沿って一つひとつ着実に実行し
ていく努力が必要であることは言うまでもありません。そしてまた、努力しながら実行していくことが
必ずしもうまくいくとも限らず、なかなか思うようにできない、計画通りには進まないということもあ
るかも知れません。そのうち最初の頃の意欲が萎えて、結果的には計画倒れに終わりがねないとい
うこともあるはずです。そうした苦労や困難を乗り越えて「実行」されることで、計画は「実現」に繋が
ります。まずは、計画に沿って、実行し続ける決意と覚悟が大切だと考えます。

昨年5月、東京オリンピックで日本選手団の副主将を務め、卓球女子団体戦で銀メダルを獲得し、オ
リンピック3大会で二つの銀メダル、一つの銅メダルという成績を収めた卓球界のアスリートの一人
である石川佳純選手が引退しました。7歳で始めた卓球を、23年間選手として向き合い続けた石川選
手は、引退会見で、「自分自身、やりきったと思えました。」「『頑張って努力をした結果、いい成績が出る』
という言葉がありますが、なかなかそう思えないこともあって、そう思えないときからがスタートなの
かなと思ったこともありました。そしてその時、続けることの大切さ『何回でもチャレンジ』という
言葉に励まされ、大切なのはそこかなと思って活動してきました。」と、振り返っています。自身のそう
した振り返りから、石川選手は、「目標だったり、夢中になれたりするものを見つけてほしい」という
ことを子どもたちへのメッセージとして、晴れ晴れとした表情で語っている姿がとても印象的であ
った素敵な引退会見でした。自分の「夢」や「願い」の実現に向け、「何回でもチャレンジ」。この姿を川上小
学校の子どもたちにも大事にしてほしいと思っています。

アスリートと呼ばれる多くの方が、「夢に向かって努力を続ければ、夢は叶うもの」と、様々な機会を
通して語っています。「夢」や「願い」をもつこと、そして努力をし続けることは、「明日を生きること」
に積極的になることに違いありません。もちろん叶わない夢もあるかもしれませんが、石川選手のよう
に、自分が夢中になれることややりたいことを、自分の「夢」や「願い」としてもち、「なりたい自分」
「こうありたい自分」として思い描き、その姿に向かって何回でもチャレンジしながら、努力を続けて
いく姿こそ大切なのだと思えます。

本校の子どもたちが、新年を迎えるにあたり、これからも自分の「夢」や「願い」をもち、その実現
に向かって努力することを楽しみにしています。そのためにも、私たち大人が川上小学校の子ども
たちの育ちをしっかりと支えることが必要です。本年もまた、保護者・地域の皆様方のご理解とご協
力、そして温かいご支援をいただきながら、教職員一同、子どもたちのために日々最善を尽くしてまい
ります。